

東京都知的財産総合センター 成果事例のご紹介⑨(全11回)

# 特許の壁を構築し、 「ナビゲーションエンジン」技術を世界標準に

## 株式会社ナビタイムジャパン

株式会社ナビタイムジャパンは、経路検索エンジンや地図描写エンジンの開発で広く知られている。とくに経路検索コンテンツ「NAVITIME」は色々な交通手段の中から最適な移動手段を提供するシステムで、利用者は急増している。今後は、海外への展開を視野に入れており、「ナビ」を基軸にしながら、事業拡大を目指している。

代表取締役：大西 啓介

所在地：東京都港区南青山3-8-38

業種：ソフトウェア開発業

資本金：17,800万円

### 【知財経営を重視】

「ナビ技術を世界標準にしたい」大西啓介社長は自社を世界に飛躍する企業に育てたいと目を輝かせる。

同社がこだわるのは最適な「人の移動」。電車の乗り換え案内はもちろん、駅出口や徒歩ルート、車ルートまでを完全ナビゲーションするのが同社の売り物である。このナビシステムはサービスが多様になってきているため、利用者にとって利便性が益々高まっている。このシステムは世界的に見ると日本が先行しており、世界市場で売上は7割を日本が占めている。こうした状況を見て大西社長は重ねて言う。「技術とマーケットの両方を押さえれば世界でも勝てる」

技術開発を推進し、先行する技術を持つことは、企業にとって非常に重要な戦略である。競合する企業に技術力で差をつけるためには、特許をはじめとした知的財産への取り組みが極めて重要となる。同社はこうした戦略をとっており、知財経営を重視する。

### 【特許の壁で後発組の追従を許さず】

同社の知財の取り組み、その主なものが「パテント・ウォール」だ。同社が次に進出を目指す海外では、デジタル方式の「第三代携帯電話」の普及が進んでおらずインフラも整備されていない。しかし近い将来大きな市場が期待できるため、同社は後発組の追従を許さない態勢づくりを目指している。そのために特許の壁を作る。つまり「パテント・ウォール」である。これが同社の技術力の向上につながり、会社の活性化を促している。この知財戦略の一環として、国内外で特許取得を着々と進めている。現在特許公開件数は343件で、そのうち登録は105件となっている。

### 【東京都知的財産総合センターの助成制度を活用】

特許取得、特に海外での取得には多額の経費が必要である。その経費の捻出には、どの企業でも頭を悩ませている。そこで同社は、公的制度を活用することにより、経費の軽減を図っている。東京都知的財産総合センターの外国特許出願費用助成制度をこれまで3回活用し、外国特許費用に充てている。世界を見据えながら制度を上手に活用している。

同社は「ナビゲーション・エンジン」技術の世界標準に向け、新たな技術開発とサービスの充実とともに知財戦略を強化していく。

### 企業の声

日本が世界に誇れる技術として「NAVITIME」を広く世界に発信していきたい。携帯電話を中心としたナビシステムは、多様なビジネスチャンスの可能性を持っている。先行者メリットを生かしながら、次なる展開を常に模索してビジネスの可能性を最大限追求していきたい。知財戦略は今後より重要になる。「パテント・ウォール」を築き、日本の強みを世界に発信したい。

担当：管理係 横田 明



当センターを利用し、経営に生かしている企業の取り組みを紹介している「成果事例集」を発行しています。

## 知財のよろず相談を専門家集団(相談員・弁理士・弁護士)がサポート!

東京都知的財産総合センターでは、中小企業の皆さまの知的財産に関するご相談を承っております

【無料・予約制】 TEL 03-3832-3656

会社トップページ → メニュー一覧 知的財産